

2021年12月11日

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会

会長 十倉 雅和 様

大阪府知事 吉村 洋文 様

大阪市長 松井 一郎 様

公益社団法人 日本造園学会

会長 小野 良平

生態工学研究推進委員会委員長 倉本 宣

大阪夢洲の自然環境保全について（意見書）

私たちはわが国の自然保護と生物多様性の保全に関わる学術団体として、大阪夢洲の自然環境の保全について意見を申し上げます。

大阪夢洲では、現在、2025年大阪・関西万博の事業に向けて埋立て工事がすすめられており、同時に環境影響評価の手続きがすすめられています。万博の会場予定地には、近隣の南港野鳥園と共に、「大阪府レッドリスト 2014」（大阪府環境農林水産部、平成26年）によって、希少な野生生物が生息し、種の多様性が高い地域として生物多様性ホットスポットのAランクに指定されています。また、夢洲は淀川の河口に位置しており、淀川汽水域も同様にAランクに指定されています。大阪府環境農林水産部「大阪の生物多様性ホットスポット-多様な生き物たちに会える場所-」（平成28年）によれば、夢洲や南港野鳥園の周辺には、貴重な生態系として、干潟・河川汽水域と、代替裸地・草地（埋立地）があり、貴重な生物として、水鳥のコアジサシ（環境省絶滅危惧Ⅱ類（VU））やシロチドリ（環境省絶滅危惧Ⅱ類（VU））等、猛禽類のチュウヒ（環境省絶滅危惧ⅠB類（EN））やハイイロチュウヒ等が生息している記録があります。

また、公益社団法人大阪自然環境保全協会の調査によれば、コアジサシとセイタカシギ（環境省絶滅危惧Ⅱ類（VU））ほかの繁殖、ホシハジロ（国際自然保護連合（IUCN）の絶滅危惧Ⅱ類（VU））、ツクシガモ（環境省絶滅危惧Ⅱ類（VU））などが確認されています。コアジサシについては、2021年6月に大阪港湾局長が、集団で産卵する場所について繁殖時期の万博会場整備の土地造成工事を一時中止しています。植物では、塩性湿地に生育するウラギク（環境省準絶滅危惧（NT））や大阪府では絶滅したとされるカワツルモ（大阪府レッドリスト絶滅（EX））が確認されています。

大阪・関西万博の開催目的は、「2025大阪・関西万博がめざすもの」にあるように「持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献」であり、テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」となっています。基本計画5つの特徴の第1は「海と空を感じられる会場」となってい

ます。これらは、どれも夢洲の鳥類を代表とする野生生物の保護を前提としなければ成り立たないものと言えます。

以上の状況から、未来に向けて夢洲の貴重な自然と共存する道を探っていただくことを私たちは提言します。具体的には、鳥類を保護しつつ開発する方法としてラムサール条約の登録湿地にすることを検討いただきたいと考えます。ホシハジロは2020年度に5,000羽の飛来が確認されており、登録湿地の基準を満たしています。今後、環境影響評価の調査が進めば、貴重な生物が発見されることは十分に想定されることです。2020東京オリンピック・パラリンピックでは、競技会場と選手村が集まる東京湾の埋め立て地の葛西海浜公園を2018年にラムサール条約の登録湿地にしています。世界から集まる人たちに、国際的な自然保護地に接して大会が催されることをアピールしたものです。大阪・関西万博でも同様に、SDGsへの貢献を具現化し、国際社会へ未来社会の新しい姿を発信されることを強く希望します。